

「知床岬赤岩地区羅臼昆布エコツアー」実施状況等について

知床羅臼町観光協会

1. 取組と経過

- H26. 5/9 第1回検討部会
5/20 第2回検討部会 第1回の課題解決・6月検討会議提出内容の確認
7/14 検討会議 本事業の提案、モニターツアーの提案。
3年間のモニターツアーの実施を承認。
8/8～モニターツアー実施 (8/8・9、8/13・14の計2回)
10/9 第3回検討部会 本事業の内容見直し
12/17 第4回検討部会 (荒天中止) 検討会議に向けた内容の確認 メール協議
- H27. 1/22 検討会議 本事業の提案 (再)・モニターツアーの継続を承認。
検討部会を実施部会として再構成。
2/1 ガイド登録について検討開始
7/20～モニターツアー実施 (計7回)
8/24 第1回実施部会 本事業内容の実施状況確認
9/1 検討会議 本事業の報告
- H28. 8/23 第2回実施部会
9/6 検討会議 本事業内容の実施状況確認、本事業の提案 (再)

2. 平成28年度 モニターツアーの実施結果について

(1) 実施日及び参加者

○平成28年8月12日～13日

参加者数 7名、主催者側 ガイド (船頭含む) 4名、観光協会 1名

(参加者内訳)

有識者 4名

結城正美 (金沢大学人間社会研究域歴史言語文化学系 教授、環境文学研究者)

豊里真弓 (札幌大学女子短期大学部教授、環境文学研究者)

富田俊明 (北海道教育大学釧路校 美術教育講座 准教授、美術家)

藤木正則 (元稚内北星学園大学情報メディア学部講師、美術家)

メディア 2名

中山芳子・竹内智恵 (シリエトクノート編集部記者)

羅臼高校教諭

●実施回数計1回 参加者数計7名、関係者5名。

・旅行会社4社によるツアー参加申し込みはあったが、募集人数が満たなく不催行となった。

・一般参加問い合わせはあったが、予約に至らなかった。

3. モニタリング及びアンケート調査について

(1) モニタリング

①観光協会ツアーモニタリング

ツアーを掌握する観光協会が、反省点や所感等を記載したもの。

【内容】参加者・ツアー内容を管理して実施できているか・参加者の動き・発問事項をツアーに同行し記録した。

【結果】特筆事項のみ掲載

漁業に従事されている方の解説に対し特に質問が増え、内容が深まっていた。赤岩地区で昆布漁に携わったガイド2名（男性1名・女性1名）が同行したことにより、質問に多角的に回答できていた。番屋内での解説に加え、ガイドによる昔の暮らしや思い出話に高い関心が示され、番屋内からみられる赤岩や知床半島の景色を写真に収めていた。

ツアー前にギャラリーミグラーで開催されている企画展示「知床岬の昆布漁」を見た参加者が他の参加者に対し時代背景について情報提供する場面があった。

船上からヒグマを発見したが、関心は高くなかった。

復路での強い南東の風に驚いている様子だった。

【考察】

当ツアーに携わる昆布漁従事者や赤岩地区漁業経験者への関心が高く、プロフィール等を配布資料や解説に加えるとより良い。

2日目の気象や心構えなどの周知には「参加者の声」を活用することでリアリティを出す工夫が必要。

②植生モニタリング

北海道森林管理局 知床森林生態系保全センターによる植生調査実施

【内容】H26. 8. 14 及び H27. 8. 5、H28. 8. 8、ツアー客が通行する箇所を含むように 3m×100m のプロットを設定し、そこに見られる植物種のリストアップを行った。

【結果】

・平成 26、27、28 年度に確認できた植物種

〈通行路〉 6 科 9 種

アキタブキ、エゾオグルマ、シロヨモギ、エゾノカワラマツバ、エゾノシシウド、ハマエンドウ、オオイタドリ、ヒメスイバ（外来種）、ハママギ

〈周辺〉 13 科 18 種

エゾヨモギ、コウゾリナ、ミヤマアキノキリンソウ、ヤマハハコ、ハマベンケイソウ、ハマボウフウ、ナナカマド、ナワシロイチゴ、ノリウツギ、エゾノキリンソウ、アキカラマツ、ギシギシ、ハンノキ、トドマツ、イタヤカエデ、キタコブシ、ホオノキ、ヤマブドウ

2) 希少種

・ツアー客の通行路には、環境省レッドリスト（絶滅のおそれのある種）及び北海道レッドリストに入っている種は見られなかった。ただ、プロットより山側（通行路から大きく外れた箇所）には環境省レッドリスト絶滅危惧Ⅱ類（VU）に分類されるシコタンハコベが見られた。

赤岩地区植生調査位置図



【考察】

3年間の調査を比較した結果、通行路に関してはほぼ同じ植生であり変化は確認できなかった。

また、通行路には外来種であるヒメスイバも見られたが、調査初年度から容易に確認できるほど生えており、本ツアー後に運ばれてきたとは考えにくい。

なお、ツアー主催者が植生の踏みつけに対する啓発や足裏等に付着し持ち込まれる可能性のある植物の種を排除する対策も行っており、ツアーによる植生への影響は最小限と考える。

③知床半島利用者モニタリング

環境省羅臼自然保護官事務所による「原生感アンケート」実施

【内容】

・H28.7.15～8.17、知床半島先端部地区における海岸トレッキング利用者の「原生自然感」について、ルサフィールドハウス、羅臼ビジターセンター、相泊に設置された入林箱にアンケートを設置し、利用者を対象に利用前或いは利用後に配布し、記入してもらった。

【結果・考察】

- ・7件（7パーティ：計12名）の回答を得た。
- ・エコツアーを（見ていないが）もし目にした場合、「気になる」と回答した3件のうち2件は、漁業活動を見ても「少し気になる」または「気になる」と回答している。
- ・エコツアーを（見ていないが）もし目にした場合、「あまり気にならない」「良いと思う」との回答がそれぞれ1件ずつある。
- ・船で上陸すべきでないというコメントが3件みられる。
- ・以上のように意見が割れている（＝どちらか一方ではない）。
- ・回答数は極少数であり、本アンケート結果については、参考データとして扱いたい。

以上のモニタリング結果を踏まえ実施部会で協議した結果、本ツアーが地域への還元できる役割として、以下の事が見いだせた。

- ・現在ヒアリング等で情報収集している昆布漁の歴史を記録資料として残し、公開する。
- ・トレッカー・植生・ヒグマ・営巣しているオジロワシ等をモニタリングする。

（2）アンケート 別添資料

- ・ツアー参加理由について、全体の約43%が「羅臼昆布の歴史についてじっくり学びたかった」と回答した。
- ・ツアー全体の満足度について、全員が「満足」と回答した。
- ・ツアー参加前と参加後の羅臼昆布への関心について、参加者全員が「深まった」と回答した。
- ・『知床の価値』だと思っている事について、選択式の複数回答式の質問では、参加前後では、選択数が約40%増加した。
- ・「知床の価値」について、選択数が増加した上位は「農業や漁業の営みの歴史・風景」約57%、「魚が自然産卵を行い命の循環が見られる河川」「自然と共に生きる人々との交流」約43%、「海産物」「海・川・森のつながりによる原生的な動物群衆・大型野生動物・希少生物」「本来の生態系を守る取り組み」約29%となった。選択数が減少した項目では、「登山やカヤックなどのアウトドア体験」が約14%減少となった。

- ・「知床先端部地区で昔から羅臼昆布漁が営まれていたことを知っていたか」については、約 57%が「知らなかった」と回答した。
- ・「ツアーを羅臼昆布漁の歴史・文化を伝えるために実施することについて、どのように考えるか」については、全体の約 86%が「良いと思う」と回答した。
- ・「今後このツアーを継続することについて、どのように考えるか」について、約 86%が「継続すべき」と回答した。「その他」が約 14% (1名)、“ツアーの内容及び昆布漁の歴史・文化的背景を小冊子などで十分伝える作業を併せて行ったうえで継続すべきだ”と回答した。

(3) その他

- ・本ツアーの実施意義について、有識者の方々から考察をいただいた。 別添資料

- ・「知床岬赤岩地区羅臼昆布エコツアー報告会」開催
本ツアーの平成 26. 27 年度の実施内容について報告会を開催した。

開催日：平成 28 年 4 月 1 日 (金) 14:00~15:30
参加者：34 名

地元昆布漁経験者の参加があり、写真資料の提供を受けたほか、当時の昆布漁や生活の様子についてヒアリングできた。本年のモニターツアーにはガイドとして同行していただいた。

(写真は報告会のヒアリングの様子)



- ・「ガイド勉強会」開催

報告会で得られた情報とその後寄せられた写真資料及び協会独自に文献調査した結果をまとめ、勉強会を開催した。

開催日：平成 28 年 7 月 1 日 (金) 13:00~15:30



- ・羅臼郷土写真展「The Last Kelp Harvesting -知床岬の昆布漁-」開催

本ツアー及び報告会・勉強会、文献調査で得られた知床岬の昆布漁の史実をまとめ、写真展を開催した。

開催期間：平成 28 年 7 月 16 日 (土) ~8 月 15 日 (月)
来場者：延べ 260 名

